

BOM for Windows Ver.7.0 SR2 リリースノート

このドキュメントでは、BOM for Windows Ver.7.0 SR2 の主な新機能、仕様変更、不具合修正、制限事項の各内容について、ご案内しています。

■ 新機能・機能拡張 ■	2
1. Windows Server 2019 に対応	2
2. 「AWS S3 ストレージ容量監視」および「AWS S3 ファイル送信アクション」が Amazon S3 互換ストレージに対応	2
3. iLO ログ監視を追加	2
4. Microsoft Office 365 メール送信対応	2
■ 新テンプレート ■	3
1. WSUS 監視テンプレート	3
2. イベントログ監視自動復旧機能テンプレート	3
3. ローカル監視専用 Windows システム監視 Basic テンプレート	3
4. Backup Exec 16 および 20 用監視テンプレート	3
5. System Recovery 16 および 18 用監視テンプレート	3
■ 脆弱性対応 ■	3
1. OpenSSL を更新	3
■ 不具合修正 ■	4
1. 「パフォーマンスカウンター監視」で監視失敗が検知されない	4
2. 予約済み変数が正しく反映されない	4
■ 注意・制限事項 ■	4
1. 「VMware ハードウェアステータス監視」(VMware オプション)非推奨化	4
2. 「パフォーマンスカウンター監視」で失敗と判定されるケースが増える	4
3. ヘルプファイルの外部リンクをクリックするとスクリプトエラーが発生する	4
■ 公開済みモジュール ■	4
1. BOM for Windows Ver.7.0 SR1 向けアップデートモジュール(201901)	4
■ 公開済みテンプレート ■	6
1. SQL Server 2017 (Windows 版) 監視テンプレート	6

■ ■ ■ 更新履歴 ■ ■ ■

- 2017年03月 BOM for Windows Ver. 7.0 リリース
- 2017年11月 BOM for Windows Ver. 7.0 SR1 リリース
- 2019年05月 BOM for Windows Ver. 7.0 SR2 リリース

■ ■ ■ 製品表記 ■ ■ ■

本リリースノートでは、以下の製品について略称を使用しております。

正式名称	本リリースノートでの呼称(略称)
BOM for Windows Ver.7.0	BOM 7.0
BOM for Windows Ver.7.0 SR2	BOM 7.0 SR2
BOM VMware オプション Ver.7.0 SR2	VMware オプション
Amazon Simple Storage Service	Amazon S3
Integrated Lights-Out	iLO

■ ■ ■ BOM Report オプション Ver.7.0 SR2 について ■ ■ ■

BOM Report オプション Ver. 7.0 SR2 の新機能、仕様変更/機能改善および、注意・制限事項については、弊社サイトの製品情報およびサポート技術情報を参照してください。

■ ■ ■ 新機能・機能拡張 ■ ■ ■

1.Windows Server 2019 に対応

- 2018年10月にリリースされた、Windows Server 2019環境における監視に対応しました。

2.「AWS S3 ストレージ容量監視」および「AWS S3 ファイル送信アクション」が Amazon S3 互換ストレージに対応

- 「AWS S3 ストレージ容量監視」および「AWS S3 ファイル送信アクション」が、Amazon S3 の API に準拠する互換ストレージに対応しました。
※ Amazon S3互換ストレージについて、API準拠をうたう全てのストレージでの動作を保証するものではありません。弊社では、クラウドファン株式会社のCLOUDIAN HYPERSTOREについて動作確認が取れております。

3.iLO ログ監視を追加

- HPE iLO5を搭載した監視対象コンピューターに接続し、iLO5が出力するIntegrated Management Log (IML)の件数を監視できるようになりました。

4.Microsoft Office 365 メール送信対応

- 通知アクション項目および通知項目のメール送信アクションについて、Microsoft Office 365 のメールサーバーからメールを送信できるようになりました。

■■ 新テンプレート ■■

1.WSUS 監視テンプレート

- Windows Server Update Services (WSUS) の正常稼働をBOM 7.0 SR2で監視する際に、その設定を支援するためのテンプレートを追加しました。
テンプレートのインポートから、「Windows オプション」-「WSUS監視」を選択してください。
※ 本テンプレートはWindows Server 2012 R2以降のWindowsサーバーOS環境に使用できません。
- 本テンプレートの詳細については、製品メディアに同梱された以下のドキュメントを参照してください。
<BOMインストールメディア>¥TOOLS¥WSUS監視¥WSUS正常性監視のポイント.pdf

2.イベントログ監視自動復旧機能テンプレート

- システムの想定外の動作によって、イベントログ監視の管理情報へ異常な値が記録された際に、それを検知して監視を自動的に復旧する機能をテンプレート化し、追加しました。
テンプレートのインポートから、「Windows 基本」-「EV自動復旧機能」を選択してください。
※ 本テンプレートはローカル監視のみで使用できます。
- 本テンプレートの内容はBOM 7.0 SR2同梱の「Windows システム監視 Basic (ローカル監視)」テンプレートにも追加されていますので、すでにこのテンプレートを導入済みの場合、本テンプレートを適用する必要はありません。

3.ローカル監視専用 Windows システム監視 Basic テンプレート

- 従来の“Windows システム監視 Basic”に‘2. イベントログ監視自動復旧機能テンプレート’の内容を含めた、ローカル監視のみで使用できるテンプレートを追加しました。
テンプレートのインポートから、「標準構成テンプレート」-「Windows システム監視 Basic (ローカル監視)」を選択してください。

4.Backup Exec 16 および 20 用監視テンプレート

- ベリタステクノロジーズ社のバックアップソフトウェア、Backup Exec 16および20の正常稼働をBOM 7.0 SR2で監視する際に、その設定を支援するためのテンプレートを追加しました。
テンプレートのインポートから、「バックアップ ソフト」-「Backup Exec 16/20」を選択してください。

5.System Recovery 16 および 18 用監視テンプレート

- ベリタステクノロジーズ社のバックアップソフトウェア、System Recovery 16および18の正常稼働をBOM 7.0 SR2で監視する際に、その設定を支援するためのテンプレートを追加しました。
テンプレートのインポートから、「バックアップ ソフト」-「Veritas System Recovery 16 & 18」を選択してください。

■■ 脆弱性対応 ■■

1.OpenSSL を更新

- OpenSSLのバージョンをOpenSSL 1.0.2rに更新しました。

■■■ 不具合修正 ■■■

1.「パフォーマンスカウンター監視」で監視失敗が検知されない

- 「パフォーマンスカウンター監視」でPDH(パフォーマンスデータヘルパー)系APIのエラーのみを監視失敗の判定に使用し、システム系エラーを考慮していなかったため、監視の失敗が正しく検知されていなかった点を修正しました。今後は、監視の際にシステム系エラーが返ってきた場合も失敗と判定されます。

2.予約済み変数が正しく反映されない

- 予約済み変数「\$(ThresholdY)」 「\$(ThresholdR)」を通知アクションなどに設定した際、表示単位の変更が正しく反映されていなかった件に対応しました。

■■■ 注意・制限事項 ■■■

1.「VMware ハードウェアステータス監視」(VMware オプション)非推奨化

- VMware ハードウェアステータス監視は、この監視の情報取得元となるESX ホスト上のハードウェア健全性において「不明」が頻発するなど、監視情報としての信頼性に低下が見られることから、弊社として非推奨とさせていただきます。
監視項目追加の際の右クリックメニューでは、末尾に“(非推奨)”と表示されます。

2.「パフォーマンスカウンター監視」で失敗と判定されるケースが増える

- 「■■■ 不具合修正 ■■■」の「1. 「パフォーマンスカウンター監視」で監視失敗が検知されない」で実施した対応の影響により、従来は失敗となっていなかった状況において、失敗と判定されるケースが増えることが考えられます。

3.ヘルプファイルの外部リンクをクリックするとスクリプトエラーが発生する

- 以下の場所に格納されているヘルプファイル(BOM.chm)について、文章に含まれる外部リンクをクリックすると、遷移先のウェブサイトで使用されているスクリプトの実行エラーが発生することがあります。

<BOM 7.0インストールフォルダー>\BOM7\Help\BOM.chm

この際は、キーボードのシフトキーを押しながらリンクをクリックし、外部ブラウザでリンク先を表示してください。

■■■ 公開済みモジュール ■■■

下記は、Web サイトで公開済みの「脆弱性対応」「不具合対応」「機能改善・追加」モジュールです。BOM 7.0 SR2 ではこれらの内容を全て含んでおり、別途本モジュールを適用する必要はありません。また、下記モジュールが適用済みの環境に BOM 7.0 SR2 を適用した場合でも、未適用の修正モジュールを自動で判断し、すべてのモジュールが適用された状態となる様にインストールが実行されます。

1.BOM for Windows Ver.7.0 SR1 向けアップデートモジュール(201901)

- 公開日:2019年2月15日

【脆弱性対応】

- OpenSSLのバージョンをOpenSSL 1.0.2pに更新しました。
ただし本更新内容は「■■■ 脆弱性対応 ■■■」の「1. OpenSSLを更新」によって上書きされます。

- BOM 7.0 集中監視コンソールで使用しているApache Tomcatのバージョンを9.0.12に更新しました。

【不具合対応】

- 以下のBOM Report オプションの不具合に対応しました。
BOM レポートデータベース設定ウィザードで開始基準日に月末日を設定し、収集単位を「1か月」に設定した場合、「ReportETL.exe」を実行すると以下のエラーが表示され、レポートデータベースにデータを移行できない不具合

-----以下メッセージ内容-----

[1] 2018/06/01 18:21:16.261 Program Main [Exception]:Year、Month および Day パラメータが表現できない DateTime を示しています。

- 以下の集中監視 Web サービスの不具合に対応しました。
 - 集中監視 Web サービスが監視インスタンスにポーリングする際はデータベース更新で不整合が生じないよう排他処理を行うが、既に別スレッドが初期化処理を実施しているタイミングで同時に複数のスレッドが排他コンポーネントを初期化しようすると、Null Pointer Exceptionが発生してデータベースが正常に更新できず、集中監視コンソール上で監視インスタンスが「監視サービスが停止中」と認識される不具合
 - 集中監視 Web サービスが監視対象のインスタンスへポーリングを実行した際、監視インスタンスのサービス状態取得に失敗してもポーリングフラグがOFFにならないことがあり、それ以降のポーリングが実行されなくなる。この状態になると、集中監視コンソール上のポーリング状態が「実行中」のまま更新されず、集中監視コンソール上のステータス欄に表示されるべき画像が空白になる不具合
- 以下のBOM 7.0 アrchiveサービスの不具合に対応しました。
カスタムアクションでArchiveデータ送信を実行すると、ログに「アーカイブデータ送信」はコード 0xFFFFFFF E で失敗しました。」というエラーメッセージが出力され、実行に失敗する不具合
本不具合は「BomArcMailSntp.exe」と「BomIMail.exe」を組み合わせで使用されている、特定の環境でのみ発生します。
- 以下のBOM 7.0 SNMP マネージャーサービスの不具合に対応しました。
BOM で使用するNet-SNMPの初期化処理に問題があり、バージョン 1709の更新が適用されたWindows Server 2016およびWindows 10のコンピュータで、BOM 7.0 SNMP マネージャーサービスを使用してSNMP Trapを受信する際に、GPU使用率が100%になる不具合
- 以下の排他制御解放処理に関わる不具合に対応しました。
Releaseメソッドにおいて、本来Mutexのみを解放するべきところでMutexのHANDLEまでCloseし、なおかつNULLまで設定していることが原因で、GetOwnerメソッドのHANDLEチェック処理で「排他ロックの取得に失敗しました。」とのエラーが発生する不具合

【機能改善・追加】

- BOM 集中監視 Web サービス スケジュール対応
BOM 集中監視 Web サービスから各インスタンスに行われるポーリングについて、有効・無効をWindows標準のタスクスケジューラからスケジュール管理ができるようにする機能を追加しました。
- vSphere 6.7 (ESXi 6.7, vCenter 6.7) 監視対応
VMware オプションにおいて、vSphere 6.7 (ESXi 6.7, vCenter 6.7) の監視に対応しました。
- SNMP トラップ受信で対応するEngineIDの文字数制限を拡張
BOM SNMP マネージャーサービスによるSNMPトラップ受信において、32 文字を超える文字数

のEngineIDを使用する機器を受信対象に出来るよう、設定できるEngineIDの最大文字数を64文字まで拡張しました。

- BOM Oracle オプションに監視タイムアウトを実装
BOM Oracle オプションの監視について、OLEDB接続に監視タイムアウトを実装しました。
- BOM SQL Server オプションに監視タイムアウトを実装
BOM SQL Server オプションの監視について、ODBC接続に監視タイムアウトを実装しました。

【その他】

- AdoptOpenJDK 8への移行を実施
BOM 集中監視コンソールで使用しているOracle Java SE 8が商用サポートを終了することに伴い、AdoptOpenJDKコミュニティが提供するAdoptOpenJDK 8へ移行しました。

■■ 公開済みテンプレート ■■

1. SQL Server 2017 (Windows 版) 監視テンプレート

- 公開日: 2018年10月31日
- BOM 7.0でMicrosoft SQL Server 2017 (Windows版)の稼働状態を監視する際に、その設定を支援するためのテンプレートです。
テンプレートのインポートから、「データベース サーバー」-「SQL Server 2017 (Windows版)」を選択してください。